地区：気仙沼市　震災遺構・伝承施設

ジャンル：施設見学

対象：教育旅行　団体旅行　個人旅行

気仙沼市 東日本大震災遺構・伝承館

学びのポイント

・震災遺構である気仙沼向洋高校の旧校舎には、4階まで津波が到達した痕跡など、津波災害の規模や被災状況を想像できる痕跡があります。見学を通して、災害は想定を上回ることがあると理解し、日頃からの備えの大切さを学ぶことができます。

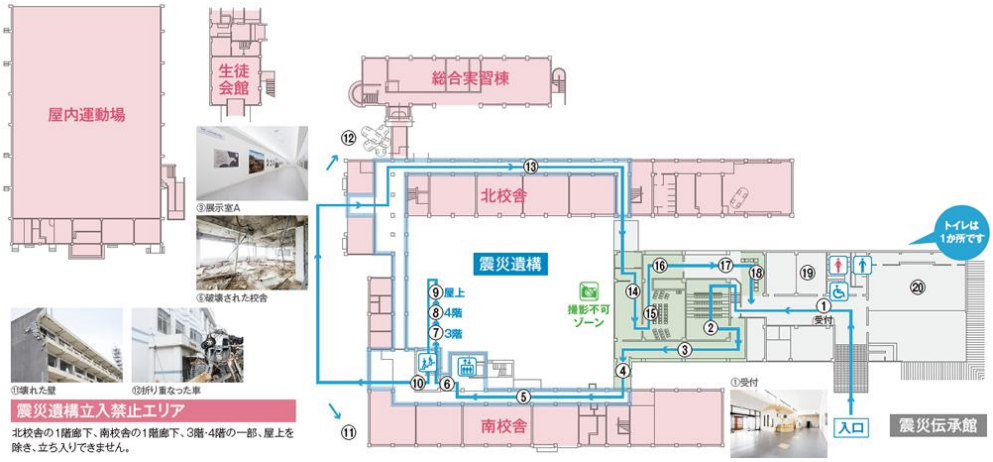
・震災遺構や伝承館の写真・映像などの展示資料は、説明を必要最小限にとどめることで、来館者が自分なりに状況や被害を想像できるようにしています。

・復興に取り組む「海と生きる」気仙沼の人々の姿や復興への歩みを知ることで、自然と共に生きることの意味や命の尊さについて考える機会を提供しています。

1．内容

説 明	宮城県北東端に位置する気仙沼市は、太平洋に面したリアス海岸を有し、三陸海岸南部の交通・商業の拠点として古くから海と共に発展してきた港町です。特定第三種漁港である気仙沼漁港をはじめ、市内の漁港は沿岸・沖合・遠洋漁業の拠点として栄え、水産業を中心にまちが形成されてきました。東日本大震災では、津波と大規模な津波火災により市内の広い範囲が被災し、多くの尊い命が失われるなど、甚大な被害を受けました。 気仙沼市 東日本大震災遺構・伝承館は、震災の記憶と教訓を後世に伝え、防災・減災の大切さを考える場として、市が目指す「津波死ゼロのまちづくり」に寄与することを目的に整備された施設です。気仙沼向洋高校の旧校舎を震災遺構として、被災当時の状態を可能な限り保存・公開し、津波の脅威や被災状況を伝えるとともに、「海と生きる」人々の姿や復興への歩みを紹介し、自然と共に生きることや命の尊さ、防災・減災の大切さについて考えるきっかけを提供しています。 ［2019年3月10日から一般公開開始］

＜気仙沼市 東日本大震災遺構・伝承館＞



ありのままを見せる震災遺構

震災遺構は「目に見える証」として、被災当時の姿を可能な限り保存しています。実際の痕跡を目にすることで被害状況を実感し、防災・減災を自分ごととして考えるきっかけとなります。

語り部ガイドによる案内

「けせんぬま震災伝承ネットワーク」による館内ガイドを実施しています。地元の中高生を含む様々なメンバーが、震災の記憶と教訓を伝えています。（詳細は「8-1.オプションメニュー」に掲載）

オプションメニューの充実

来館者が見学での学びをさらに深め、主体的に考える機会となるよう、オプションメニューを複数用意しています。（詳細は「8-1～5.オプションメニュー」に掲載）

2．順路

視 聴

伝承館　映像シアター

施設見学の導入として、気仙沼市の被災状況を理解します。震災前の様子から、東日本大震災当日に市内を襲った津波、被災直後の状況、救助活動の様子までを記録映像で振り返ります。
映像時間：13分（300インチ大型スクリーン）
上映開始：毎時00分・20分・40分　※団体は時間外調整、貸切上映が相談可能

見 学

伝承館　展示室A

震災発生直後の気仙沼向洋高校と高校のあった階上地区の被災状況を写した写真を展示しています。

震災後、地域がどのような状況にあったのかを把握することで、その後の遺構見学につなげ、被災の実態への理解を深めます。

見 学

震災遺構　旧南校舎 1階・3階・4階

津波による校舎内の被災状況を当時のまま保存しています。津波によって破損された設備や散乱した教科書、校舎内に流入した瓦礫、上階まで運ばれた自動車などから、海岸から離れた学校の校舎上階まで津波が到達した状況を目の当たりにすることで、津波の規模や破壊力の大きさを実感します。

見 学

震災遺構　旧南校舎 屋上

屋上は、震災当日に教職員や工事関係者が避難した場所です。当時校舎は工事中で、校内に残っていた教職員と工事関係者45名が屋上へ避難、津波が校舎上階まで迫る中で全員が助かりました。周辺を見渡しながら、当時の避難状況や災害時の判断、迅速な避難行動の重要性について考えます。

見 学

震災遺構　屋外 旧南校舎西側・総合実習棟前

旧南校舎西側4階には、津波で流されてきた冷凍工場が衝突した痕跡が残り、津波が約12メートル以上到達したことを示しています。
北校舎と総合実習棟の間には、流されてきた車両が瓦礫とともに折り重なった状態で保存されており、津波の威力を示す遺構の一つとなっています。

見 学

震災遺構　旧北校舎

震災前の気仙沼向洋高校での生徒たちの学校生活の様子を写した写真パネルを展示しています。当時この場所には「情報海洋科」「産業経済科」「機械技術科」1年生の教室がありました。授業風景や休み時間、放課後のひとときなど、震災前の学校の日常の姿を感じることができます。

見 学

伝承館　展示室B

震災直後から復旧初期にかけての人々の状況を伝えています。津波と津波火災による被災状況、自衛隊・警察・消防による救助活動や行方不明者の捜索、避難所での生活や国内外からの支援、応急仮設住宅での暮らしなどを通して、被災直後の状況と復旧・生活再建へ向かう歩みを紹介しています。

視 聴
・
見 学

伝承館　講話室・展示コーナー

被災者の想いや命の大切さを伝える約15分の映像を上映しています。あわせて、復興の歩みや「海と生きる」をテーマとした展示を通して、震災から復興へと歩んできた地域の姿と現在の気仙沼の暮らしを紹介します。見学後のメッセージコーナーや、津波の発生・挙動を学ぶ図書コーナーもあります。

3．施設情報①

開館時間	4月～9月：9:30～17:00(最終受付は16:00) 10月～3月：9:30～16:00(最終受付は15:00)
特別開館日	毎月11日 9月1日(防災の日) 11月5日(世界津波の日) ※日曜日・祝日に限らず開館する日です
定休日	毎週月曜日　※月曜日が祝日の場合は開館し、翌日休館 年末年始(12月29日～1月4日)
所要時間	・自由見学：約60分 ・語り部ガイドによる案内：90分 ※人数が100名を超える場合は見学の所要時間が100分以上かかります。あらかじめお問合せください。
予約	[見学の予約について] ・30名以上の団体は、見学のみの場合でも予約が必要です。 ・見学の予約は、気仙沼市 東日本大震災遺構・伝承館公式Webサイトより予約申込書をダウンロードし、必要事項を記入のうえ、見学予定日の10日前までにFAXまたはメールにてお申込みください。電話での予約は受付しておりません。 ・教育旅行およびツアーの場合は、予約申込書と併せて、可能な限り行程表をご提出ください。 ●オプションメニュー(内容の詳細は「8.オプションメニュー」に掲載) [語り部ガイドによる案内] ・公式Webサイトより予約申込書をダウンロードし、オプションメニュー「語り部ガイド」の欄に必要事項を記入し、見学予定日の10日前までにFAXまたはメールにてお申込みください。 ・個人での見学の場合でも、語り部ガイド等のオプションメニューを利用する際は予約が必要です。 ・語り部ガイドは館内に常駐していません。見学日の10日前までにお申込みください。 [ふりかえりワークショップ等、その他のメニュー] ・公式Webサイトより予約申込書をダウンロードし、希望するオプションメニューの欄に必要事項を記入し、見学予定日の10日前までにFAXまたはメールにてお申込みください。 ※気仙沼市 東日本大震災遺構・伝承館 Webサイト　お問合せ・ご予約ご案内 https://www.kesennuma-memorial.jp/information/#a02
見学人数	最大100名程度 ※見学者が100名の場合は、20名ずつの5グループに分かれて見学します。語り部ガイドによる案内を希望する場合は、各グループに1名のガイドが同行します。 ※100名以上の場合は、時間差により複数回に分けて実施することが可能です。事前にご相談ください。
料金	【入場料金】 ●個人 一般・大学生:600円・高校生400円・小中学生:300円 ●団体 一般・大学生:500円・高校生300円・小中学生:200円 ●年間パスポート 一般・大学生:1,800円・高校生1,200円・小中学生:900円 ※表示料金はすべて税込み ※団体は30名以上 ※学校団体の引率教員は無料 ※障がい者料金の設定あり ※下見は3名まで入館料無料で館内の視察が可能です。 【語り部ガイド(90分)】 ●学校教育活動 語り部ガイド1名につき3,000円(税込) ●個人・一般団体 語り部ガイド1名につき6,000円(税込) ※語り部ガイド1名につき、参加人数は1名～20名
支払い方法	当日現金払い、後日請求書払い クレジットカード決済、QRコード決済も対応しています ※交通系電子マネーには対応していません

4．施設情報②

トイレ	伝承館：男性用・女性用・バリアフリートイレ ※震災遺構内にはトイレがありませんので、見学前に済ませていただくようお願いします				
バリアフリー	・館内全域バリアフリー対応 ・車椅子を無料で貸し出し、受付にて対応	買物施設	自動販売機あり	食事施設	なし ※エントランスや貸館スペースでは持ち込みの飲食可
その他	・施設内にAEDの設置あり ・シアター、および講話室での映像資料に日本語の字幕あり				

5．アクセス

所在地	〒988-0246 宮城県気仙沼市波路上瀬向9-1 Googleマップ：https://maps.app.goo.gl/JbitEhM2UnakU39g7	
駐車場	・第1駐車場：普通車56台、障がい者等優先2台 ・第2駐車場：普通車55台、中型・大型バス17台	
アクセス	車	三陸自動車道大谷海岸ICより約8分
	その他	タクシー利用の場合 ・気仙沼市 ・JR気仙沼線陸前階上駅より約3分 電車利用の場合 JR気仙沼線気仙沼駅からBRTに乗車しJR陸前階上駅にて下車後、徒歩で約23分
各地からの所要時間	・仙台駅から車で約1時間50分 ・仙台空港から車で約2時間 ・松島海岸から三陸自動車道を経由して車で約90分	

6．災害時の対応

周辺の避難場所	・津波警報が発表されたら職員の指示に従い、高台へ避難してください ・避難マップには避難場所までの経路を記載しています。津波浸水区域外であっても安心せず、速やかな避難に備えてください。

7．その他

外国語対応	展示キャプションは、QRコードを読み取ることで、英語・中国語・韓国語・インドネシア語による音声ガイダンスを利用することができます。 ※通訳同行による外国語対応はあらかじめご相談ください。
周辺施設	三陸復興国立公園・岩井崎：車で約3分 道の駅大谷海岸：車で約8分 気仙沼「海の市」：車で約15分 大島汽船遊覧船発券所：車で約17分

8-１．オプションメニュー ＜語り部ガイド＞

内容	「けせんぬま震災伝承ネットワーク」のメンバーによる館内の語り部ガイドを実施しています。けせんぬま震災伝承ネットワークは、東日本大震災の記憶と教訓を語り伝えていくことを目的に、様々な職種・知識・経験を持つメンバーで構成されています。震災遺構の校舎案内や展示資料の解説、気仙沼市全体および震災遺構・伝承館のある階上地区の被災状況の紹介、震災の経験と教訓の伝承を通じ、防災意識の向上を図るガイドを行っています。参加者一人ひとりが自らの命を守る行動を考える契機となることを目指しています。
時間	90分
人数	100名程度まで ※見学者20名につき、語り部ガイド1名が案内します
料金	●学校教育活動 語り部ガイド1名につき3,000円（税込） ●個人・一般団体 語り部ガイド1名につき6,000円（税込）

8-2．オプションメニュー ＜ふりかえりワークショップ＞

内容	見学および語り部ガイドで得た学びを、「すごい」「おそろしい」といった感想にとどまらないよう、見学後のグループディスカッションを通じて、感じたことや考えたことを言語化し、整理・共有します。学校における探究学習の一環として組み込むことで、学びを主体的・継続的な探究へと発展させ、将来起こり得る災害に備える心構えを育む一助になります。 ●進行 1. クールダウン 2. 学んだこと・感じたことの言語化 3. 内容の整理 4. 発表・共有
時間	60分～90分
人数	100名程度まで
料金	●学校教育活動 6,000円（税込） ●個人・一般団体 10,000円（税込）

8-3. オプションメニュー【講義】防災セミナー

内容	今後発生が懸念される自然災害に備え、東日本大震災の経験と教訓を基盤に、将来起こり得る多様なリスクに対応するための視点と実践力を養うことを目的とした講義を行っています。各分野の専門家による知見の提供や、震災の被災地域における防災・復興の取り組み事例等を通じて、組織や地域の災害対応力の向上を図ります。 教育旅行、企業研修、行政視察、自主防災組織等、目的に応じて講座内容を選択することが可能です。講師の専門分野や講話テーマの詳細は、公式サイト掲載の講師一覧をご参照ください。 ●講師一覧 https://www.kesennuma-memorial.jp/request/option.php ※テキストや機材等の準備は不要です。当日の会場設営を含め、運営は主催者側にて対応します。
時間	60分～90分
人数	100名程度
料金	●学校教育活動 1講義8,000円(税込) ●個人・一般団体 1講義10,000円(税込)

8-4. オプションメニュー【語り部プログラム（屋外）】杉ノ下のあの日

内容	震災遺構・伝承館のある階上地区の太平洋に面する杉ノ下集落には、東日本大震災で犠牲となった住民の遺族会による慰霊碑が建立されており、次の教訓が刻まれています。 「この悲劇を繰り返すな　大地が揺れたらすぐ逃げろ　より遠くへ・・・より高台へ・・・」 階上地区杉ノ下は、過去にも幾度となく津波被害を受けてきた地域です。震災以前から住民と行政が勉強会を重ね、津波防災に取り組んできました。ハザードマップでは約7メートルの津波が想定され、明治三陸津波で被害を免れた標高約13メートルの高台が市の指定避難場所とされていましたが、東日本大震災では約18メートルの津波がこの高台を襲い、多くの住民が犠牲となりました。 プログラムでは、杉ノ下地区遺族会等が自らの経験や想いを語ります。想定を超える事態が起こり得ることを踏まえ、この教訓を自らの行動につなげるための備えや判断について考えます。
時間	60分
人数	20名程度　※20名以上は応相談
料金	5,000円(税込)　※語り部1名あたりの料金。参加者20名につき語り部1名が対応します。

8-5. オプションメニュー【体験】ボランティア体験プログラム

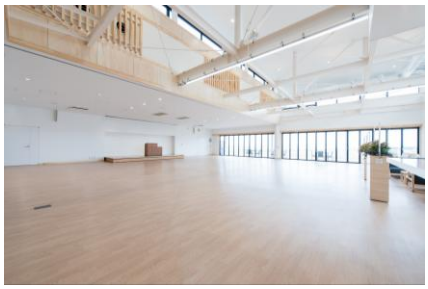
内容	気仙沼市内でボランティア活動を体験できるプログラムです。参加者の防災意識の向上や社会課題への理解促進、チームビルディング等の効果が期待でき、企業のCSR活動や研修旅行等のプログラムとして活用いただけます。 活動内容は、海岸清掃、捜索活動、被災地の環境整備、公営住宅周辺の環境美化など、内容についてはご要望に応じて調整します。 ※活動内容は、季節・天候・人数・地域のニーズ等により決定するため、事前にお選びいただくことはできません ※悪天候時は安全確保の観点から中止となる場合があります 【条件】 ・気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館を見学された団体様に限ります ・活動中の保険は団体様ごとにご加入ください ・調整上、活動日1か月前までにお申し込みください。ご要望に沿うプログラムを実施できるよう、追ってヒアリング致しますことをご了承ください。
時間	120分
人数	40名まで
料金	20名につき10,000円（税込）

東日本大震災杉ノ下遺族会 慰霊碑でのボランティア体験

９．施設内貸会場

説明	館内には、震災・防災学習の事前・事後学習やふりかえり等に利用可能な研修室があり、貸室として利用できます。ご利用の場合は、お電話にてお問合せください。 ※利用時間：午前9時～午後6時 ※利用時間が各時間区分に満たない場合でも、当該時間区分の利用として取り扱います。	
施設	研修室A ・ 研修室B	●利用可能人数：20名 ●面積：44㎡ ●料金：気仙沼市内に居住の利用者（営利以外のもの） 1時間 500円 気仙沼市内に居住の利用者（営利を目的としたもの） 1時間 1,500円 気仙沼市外に居住の利用者 1時間1,500円 ※研修室A・Bは同一面積です。A・Bを連結して全面利用が可能です（利用可能人数40名）。
	体験交流ホールA ・ 体験交流ホールB	●利用可能人数：50名 ●面積：150㎡ ●料金：気仙沼市内に居住の利用者（営利以外のもの） 1時間 900円 気仙沼市内に居住の利用者（営利を目的としたもの） 1時間 2,800円 気仙沼市外に居住の利用者 1時間2,800円 ※体験交流ホールA・Bは同一面積です。A・Bを連結して全面利用が可能です。 ホールA・Bは50名、全面利用時は約100名～150名までの収容が可能です。
備品	［映像機器］ ・プロジェクタースクリーン ［音響機器］ ・音響ワゴン（体験交流ホールAに備え付け） ・ポータブルスピーカーセット ［その他］ ・展示用パネル ・テント ※ご利用の場合は、お問合せください	

研修室A・B（同サイズ）



ホールA・B（同サイズ）

１０．お問合せ先

気仙沼市 東日本大震災遺構・伝承館
TEL：0226-28-9671
FAX：0226-28-9675
E-mail：info●kesennuma-memorial.jp（●を@に変更してください）
サイト：https://www.kesennuma-memorial.jp/